

第6学年 総合的な学習の時間 実践報告

広陵町立真美ヶ丘第一小学校 藏前 拓也

1 単元名

「まみいちから伝える竹取物語の魅力 一万葉集 古典に親しもうー」

2 単元の目標

- 万葉集や古典に親しむ活動から地域にゆかりがある竹取物語について知り、解説された文章を読んだり作品の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの味方や感じ方を理解する。
(知識・技能)
- 竹取物語について調べ、古典がもつ言葉の響きや独特のリズムに触れて感じたことを基に、伝統的な言語文化が現代にまで受け継がれていることを多角的に捉え、考えたことを適切に表現する。
(思考・判断・表現)
- 古典や竹取物語について関心をもち、意欲的に学習に取り組むとともに、受け継がれてきた伝統的な言語文化を大切にしようとする態度や実践力をもつ。
(主体的に取り組む態度)

3 単元について

○教材について

『竹取物語』は、仮名文字で書かれた現代に伝わっている物語の中で、最も古い物語といわれている。奈良時代から平安時代にかけて、中国から多くの書物が伝わり、その影響から日本でも文章は漢字で書かれていた。平安時代前期頃からは、仮名文字が使われるようになっていくことから諸説はあるが、物語の成立年代は一般に十世紀前半と考えられているが、作者も不詳である。

物語の冒頭は「今は昔、竹取の翁といふものありけり。」という一文から始まる。ここに登場する竹取の翁は、主人公であるかぐや姫の育ての親であり、名を「讃岐造」(さぬきのみやつこ)という。この竹取の翁のモデルは、万葉集(巻十六)にある「竹取翁の歌」に出てくる翁とつながる要素があることから、『竹取物語』(耀姫物語、竹取の翁の物語)と関係があるのではないかと推測されている。また、讃岐造が校区の地域にある「讃岐神社」の近くに住んでいたといわれることから、児童たちが住んでいる広陵町は『竹取物語』発祥の地とされている。これにより広陵町では、町ゆかりのかぐや姫をモチーフに「かぐやちゃん」というイメージキャラクターが誕生し、町のPRに使用されている。

『竹取物語』は、かぐや姫の昔話として内容が分りやすく、簡潔な言い回しで書かれているため、多くの人に親しまれ、昔から受け継がれてきた。原文を声に出して読んでみると、古文の言葉の美しさや言葉づかい、独特のリズムを感覚的に味わうことができる。伝統的な言語文化の魅力に触れるこの学習を通して、古典の背景をとらえ、現代に受け継がれている昔の人のものの見方や考え方を知り、自分たちのくらしとどのような関わりがあるのかを多角的にとらえられるようにこの教材を活用したい。

○児童について

児童たちは、5年時の国語科「古典の世界」(国語5年銀河/光村図書)の学習において、『竹取物語』を声に出して読む活動を行った経験はしている。しかし、「平家物語」や「徒然草」と並列

に掲載されていることもあり、『竹取物語』を深く掘り下げて学習する機会はなかった。また、単元前に実施したアンケート調査によると以下の結果が見られた。

Q：広陵町を知らない人に、自分が知っている広陵町のことを自慢するとしたらどんなことを自慢しますか。						
主な回答例と記述数（複数回答あり）						
ナス	靴下	古墳	竹取物語	図書館	その他	無回答
13	13	2	4	2	3	1

アンケート実施日：令和3年9月1日/回答児童数：30名

広陵町の街中には、「かぐや姫のまち 広陵」と記された看板がいくつか存在するが、児童の認知度として、『竹取物語』が低いことが分かる。靴下やナスの記述数が多い背景には、児童が3年時の社会科の学習において、靴下工場へ見学に行ったり、ナスの生産量や地産地消について学習したりした経験からくるものだと伺える。これらの実態を踏まえ、この学習を通して地域にゆかりのある『竹取物語』への関心や興味を高められるように展開したい。

○指導について

この単元の指導の際にはまず、これまでに学習した古典学習(俳句、短歌、百人一首)についてふり返り、改めて『竹取物語』との出会いを大切にしたいと考えている。例えば、単元の導入部では、クイズ形式で児童に発問したり、声に出して読む活動をしたりして、独特の言葉の響きやリズムに着目させたい。また、『竹取物語』は作者が不明なことやテレビやラジオ、インターネット等がない時代からどのように受け継がれてきたのかということを示す。児童が不思議と感じたり、疑問に思ったりするだろう事柄を丁寧に扱うようにしたい。

次に、単元の間では、地域のボランティアガイドと万葉文化館の研究員にゲストティーチャーとして協力を依頼する。児童らが直面する学習課題に対して、自分たちだけでは知り得ない情報やお話を聞き、より深く『竹取物語』の魅力や価値について考えさせたい。

単元の最後には、学習を通して気づいた課題に対して、自分たちにできることは何かを考えさせ、行動化を促せるようにしたい。その際、『竹取物語』について自分たちの地域の住民として、知っているつもりだったけれど、知らなかったことがあったことを問いにする。そして、児童がどのようにすれば、地域の遺産といえる『竹取物語』を受け継いでいけるかを考え、主体的に行動できることを目標とする。

4 ESDとの関連

- ・学習を通して主に養いたいESDの視点

【多様性】：「万葉集」や「竹取物語」には、文の構成や言葉の響きやリズムなどに着目すると、さまざまな味わい方があることに気づくことができる。

【連携性】：地域にゆかりのある「竹取物語」を広めるために、身近なところから自分たちができることを考え、協力して活動を進めることができる。

- ・学習を通して主に養いたいESDの資質・能力

○システムズシンキング

- ・「万葉集」や「竹取物語」などの古典文学には、独特の言葉の響きやリズムがあることや作品の内容を理解することで、昔の人のものの見方感じ方を知ることができる。

- ・「竹取物語」の魅力を広めるためには、地域の方や行政の方々と連携することで、自分たちの

活動がよりよく進められることに気づくことができる。

○クリティカルシンキング

・「竹取物語」の魅力や価値を伝える広報活動が上手く機能しているのか等の地域の課題を自分事としてとらえ、工夫や手立てを考察することができる。

○コミュニケーション力

- ・グループ活動、資料まとめ
- ・発表、発信、提案へ

・SDGsとの関連

- 目標11：住み続けられるまちづくりを
- 目標17：パートナーシップで目標を達成しよう



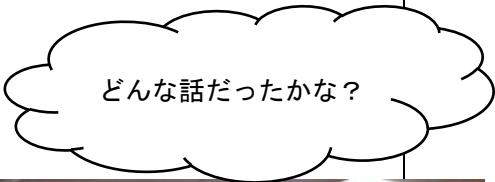
5 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に取り組む態度
①古典に親しむ活動から竹取物語について調べたりまとめたりしている。 ②解説された文章を読んだり作品の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの味方や感じ方を理解している。	①竹取物語について調べたこと基に、考えたことを適切に表現している。 ②竹取物語を広めるために、必要な努力や工夫を自分なりに考え、適切に表現している。	①竹取物語に関心をもち、地域の遺産として大切にしようとしている。 ②竹取物語を受け継いでいくために、自分にできることを考え、主体的に活動しようとしている。

6 単元計画 全15時間

段階	主な学習活動	学習への支援	評価・備考
知る	○万葉集に親しもう① ・これまでに学習してきた古典作品について話し合い、学習課題を確認する。 ・万葉集クイズ	・スライドを使って、今まで学習したものをふり返り、古典への学習意欲が高まるようにする。	・ア—①
	○「竹取物語」に親しもう ・「竹取物語」について、知っていることを発表する。 ・「竹取物語」を音読する。 ・自分が注目した言葉や文に線を引く (教)：「今から、千年以上前の話をします。」 「何の話か分かったら挙手してください。」 (子)：「作者は不明なんて、ミステリー」	・独特な言葉のリズムや響きに着目させる。	・ウ—①

作者不明の物語が、1000年以上も受け継がれているのはなぜだろ



「千年以上前から残っているのがすごい!」
 (教):「テレビやラジオもない時代から、どうやって受け継がれてきたのでしょうか。」

調べる

○讃岐神社と竹取公園に行ってみよう②～⑤
 ・讃岐神社と竹取公園を見学し、地域文化財課の方からお話を聞く。

広陵町に讃岐神社があることや竹取の翁、5人の貴公子のことがゆかりの根拠になっている



パネルがあるなんて知らなかった!



・見学をしたりお話を聞いたりして、疑問に思ったことや発見したことをメモさせる。
 ・「竹取物語」のゆかりの地になっていることが分かる事柄について考えさせる。
 (看板、竹、モニュメントなど)

・ア—①

「竹取物語」と「万葉集」はどのような関わりがあるのだろう。
 「竹取物語」が昔から伝わる理由ってなんだろう。

○万葉文化館に行ってみよう⑥～⑧
 ・万葉文化館を見学し、研究員の方からお話を聞く。
 「万葉集を竹取物語のつながりについて」
 ・ルーツを探る!

※コロナの影響で出前講座に変更



4500首もの歌をおさめた万葉集は、奈良県を中心に生まれ育った歌集です。ひとつひとつの「ことば」は、意外と今も残っています。そして、歌にこもっている「こころ」は、今も昔も変わらないものなので

・万葉集に関わるそれぞれの事柄に特徴ついて注目できるように声かけをし、見学させる。

・ア—②

昔の人は、よく月をながめていたのか。

今でも使われる言葉があったのか。



万葉集にもたけのりのおきな（竹を採るおじいさん）が出てきますが、かぐやひめに出会うのではなく、たけさんのきれいな乙女と出会うようになったおじいさんはあかちゃんころからイケメンですごくモテモテだったぞと自慢する、長ーい歌をよんでいます。
 お話はちがいますが、竹が神秘的でかしきな力をもっているというイメージは同じです。
 刺竹の三まつすべりつばな竹玉＝神にお祈りをするときの数珠などの言葉もあります。

いまはむかし
 竹とりのおきな
 竹とりのおきな
 いふもの有けい

ま
と
め
る

「竹取物語」の魅力(価値)ってなんだろう。

○万葉文化館に行って、分かったことや考えたことを話し合う。⑨～⑫

- ・自分たちが考えた「竹取物語」の魅力や価値、誇れるところについてまとめる。



○インタビューをしよう。

- ・「竹取物語」の魅力や価値って伝わっているのかな？ → お家の人にインタビュー

インタビューの結果から

- ・お父さんとお母さんが竹取物語についてあまり知らなくてびっくりした。お兄ちゃんは、案外解っていた。
- ・広陵町のキャラがかぐやちゃんは知っているけど、なぜゆかりなのかは知らないんだなと思った。お家の人に聞いてよかった。
- ・大人でも知らないことがあるんだなと思った。
- ・お父さんとお母さんに質問したら、二人とも答えがちがっていたので、面白かった。

・ロイロノートを活用し、まとめさせる。

・イー①

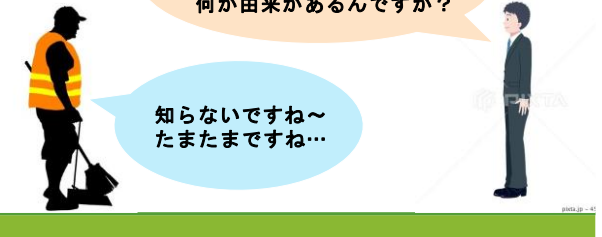
やっぱり竹をデザインに入れた方がいいかな？



・竹取公園にいた方が、モニュメントの意味を知らなかったエピソードを紹介する。

どうして、池に竜のモニュメントがあるんですか？何か由来があるんですか？

知らないですね～ たまたまですわね…



ひ
ろ
げ
る

「竹取物語」の魅力を伝えるために、自分たちにできることってなんだろう

○「竹取物語」を広めよう⑬～⑮

♡まみいちかぐや姫プロジェクト発信！

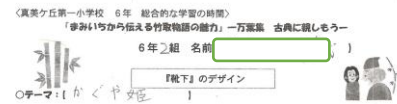
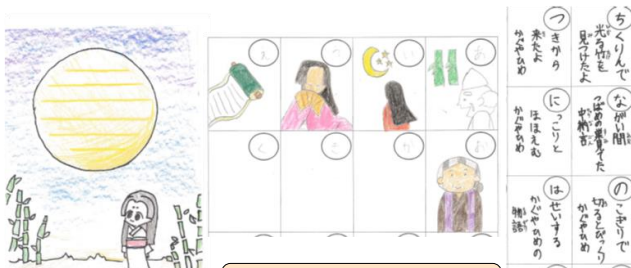
【他者に発信】

- ・カルタ、紙芝居の作成 (下級生に提供)
- ・動画の作成 (自主的に放課後取材に行く)
- ・靴下のデザイン (地域の靴下会社に提案)
- ・和菓子のデザイン (校区のお店に提案)
- ・かぐや姫グッズ企画 など

・デザイン作成のための資料や材料、ワークシートを提示する。

・イー②

・ウー②



発表者：紳士 婦人 子ども その他()

○デザインについての解説(配色・機能等のアピール)

子供が好きな色で、足に履いた時に涼しく感じるようにデザインしました。

--	--	--

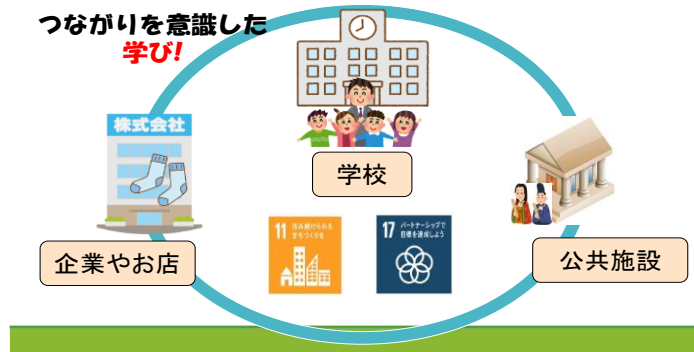
7 実践の考察

○成果

(1)つながりを意識した学びの場を提供

本実践では、学校、行政、公的機関、企業などとの関わりを意識して学習を進めることができた。例えば、広陵町文化財課のボランティアガイドの方や県立万葉文化館研究員の方をゲストティーチャーとして迎え、出前講座を行った。

児童らが自分たちだけでは分からない事柄について、専門の方から直接お話を聞くことで、課題解決につなげることができた。また、「竹取物語」を広めるために作成した靴下のデザインを地域の靴下会社へ提案し、和菓子のデザインを校区の和菓子屋に提案することができた。どちらも児童らが、3年生(工場見学)や2年生(まちたんけん)のときにお世話になった経緯があり、6年生になってから、この学習でもつなげるストーリーを展開した。こうすることで、児童らに「学校での学びは、地域や社会とつながっている」と実感させることができ、SDGs 11と17の目標にも近づけることができたのではないかと考える。



(2) 単元前後のアンケートの結果から

各質問数値の高まり

単元前後で5つの質問を設定し、アンケートを実施した。各質問の単元前後を比べると、単元後で肯定的に回答した児童の数が増えた。特に、質問2では「万葉集」と質問5では「竹取物語」への認知度が上がった。加えて、質問3と質問4では、自分たちが住んでいる地域について、好意的に捉えることができるようになった児童の数が増えた。これらは、地域にゆかりのある「竹取物語」について、自分たちが知っているつもりだったけど、知らなかったことに着目して調べ学習を行ったからではないかと考える。

例えば、お家の人(保護者)へインタビューする活動を通して、地元の人でも知らない人がいることが分かり、それを課題ととらえた。その後、「竹取物語」を広めるために自分たちで作成した各学習成果物を他者に発信したり、提供したりすることで、行動化へ移すことができたからである。

児童の記述内容から

質問5では、「竹取物語」以外に広陵町にゆかりのある、靴下や古墳に対する数値の高まりも見られた。児童らの記述内容を単元前後で比べると、単元前は無記入や「ない、ありません」と回答していた児童らが単元後には、広陵町にゆかりのあるものや「竹取物語」について記述するようになった。

単元を通して、地域にゆかりのある教材を扱ったことで、改めて広陵町にゆかりのあるものの価値や魅力を再発するきっかけになり、地域に対して愛着や誇りを感じる態度を育むことができたのではないかと考える。

●課題

実践の考察では、「ひろげる」の段階で、児童らがどのように行動化へうつすことができたのかを見取る材料が十分でなかった。その為、アンケートの分析で留まっており、細かく分析するところまでは至っていない。現在、児童らが提案した靴下のデザインをもとに、靴下会社が製品化に向けて活動を進めている。児童らが卒業するまでに手元に届く計画がされており、実際に製品化された靴下を手にした際、児童らがどんな考えや思いをもつのかを追跡調査したいと考えている。また、「竹取物語」は竹取の翁の物語であり、かぐや姫の物語との違いや共通点を整理したうえで、取り扱いを配慮する必要があった。これらのことを含めて今後の実践課題とし、これからの評価や分析方法の構築を目指していきたい。

アンケート結果の分析

Q1「古典の学習は好きですか。」

	はい	どちらかといえばはい	どちらかといえばいいえ	いいえ
事前	6人	15人	5人	6人
事後	12人	16人	2人	2人

Q2「万葉集のことを知っていますか。」

	はい	どちらかといえばはい	どちらかといえばいいえ	いいえ
事前	10人	2人	6人	4人
事後	23人	7人	2人	0人

アンケート結果の分析

Q3「自分が住んでいる広陵町は好きですか。」

	はい	どちらかといえばはい	どちらかといえばいいえ	いいえ
事前	20人	7人	2人	3人
事後	23人	7人	2人	0人

Q4「地域のために、何か自分にできることがあれば、したいと思えますか。」

	はい	どちらかといえばはい	どちらかといえばいいえ	いいえ
事前	17人	7人	5人	3人
事後	20人	10人	0人	2人

アンケート結果の分析

Q5「広陵町を知らない人に、自分が知っている広陵町のことを自慢するとしたらどんなことを自慢しますか。」

	ナス	靴下	古墳	竹取物語	図書館	その他	無回答
事前	13	13	2	4	2	3	1
事後	7	15	11	27	0	1	0

複数回答あり

Q5「広陵町を知らない人に、自分が知っている広陵町のことを自慢するとしたらどんなことを自慢しますか。」

自慢すること: ありません	自慢すること: かぐや姫の話の場所だということ。
知っていること: ない	知っていること: 古墳・くつ下・竹取物語
	自慢すること:竹取物語の広陵町にあるし自慢した

実践後